

e-ビーフNEWS 北の牧場から

February 2016

十勝のワカサギ釣り

朝の寒さが一段と増えています。-10℃以下は当たり前。-15℃以下になると顔が痛くなります。先々週の日曜に今年初めてのワカサギ釣りに出かけました。まだ薄暗い朝6時半 車のエンジンがかかりづらく温度計が-19度 ウォー寒い。車内も冷え冷えキーンと締まりますね。道中も気温が下がり始め士幌町では-23車窓も凍りつきます。走って1時間半 糠平湖の五の沢パーキングには車がびっしり。出遅れたか…

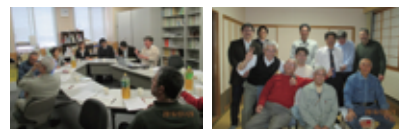
釣りの道具一式のせたそりを下し完全防寒装備でイザ出発。凹凸の雪の林間を抜け、やっと真白に雪に覆われた湖沼が見えてきた。この雪の下に一面、分厚い氷がコンクリートのように広がります。湖の中央にオレンジや緑やいろいろなワカサギ用テント村が見えてきました。ここでポイント、どこにテントを建てるか 釣果が全く変わるので情報収集。ほどほど釣れている場所に荷物を下ろしテント建て穴をあけ釣り開始。さっそくピクピクつと竿先に反応が… 今年も、休みは氷の上にあります。



活動のお知らせ

1月29日(金) 新得町 北海道畜産試験場内 研修施設 第2回肉牛飼養技術研修会を開催いたしました。参加者13名

- (1)北海道アングス牛振興協議会飼養実態調査結果について
 - (2)とうもろこしサイレージ給与による肥育
 - (3)JRA補助事業への応募について
- 以上、この後の情報交換会も延々と夜遅くまで続きました。



NEWSばか読み

- 消費者庁 TPP対策で加工品の原産地表示拡大を検討
12/28: グレーをなくせ
- 農林水産省 14年農業総産出額1.2%減8兆4千億円 12/29: 米シェア最低
- 神戸ビーフ 輸出好調14年度700頭分48t EU向け増える 12/31:
- 中国 砂漠化深刻 14年度日本国土の11倍 12/31: 環境産業推進に期待
- ASEAN経済共同体が発足 東南アジアに成長促進
12/31: 世界的な経済規模に
- 15年生まれ赤ちゃん 100万8千人微増 1/1: 育成率100大切に育てよう
- 理研 113番目の元素発見認定アジア初 1/1: 帳消しにはならないね
- 百貨店初売り 客足伸びる 1/3: 不安ながらちょっと景気が上がるかな
- ディスカウント店(外食店も)急拡大 メリハリ消費が鮮明 1/6: 貧富の差?
- ライオン シニア向け・訪日客向け歯ブラシを国内増産へ 1/6: メイドインJ
- タキイ種苗 初の機能性飼料用トウモロコシ開発 1/7: エサから乳成分へ
- 南北海道市場 黒毛素牛相場78万円さらに上昇 1/7: 天井知らず
- ローソン3-11月営業益最高 健康志向商品、成城石井が貢献
1/7: コンビニ好調
- 山形JA 粗米主体発酵TMR@38自給率90%で和牛飼養
1/8: 波及効果に期待
- NY原油 12年ぶりに安値 1/8: 車が走りやすい

- 米系製薬会社 イソジンがインフル予防薬に 1/8: なんだよウガイが原点かい
- 昨年の生鮮食品 果実・野菜が天候不順で記録的な高値
1/9: エンゲル係数上昇
- 化血研 未承認工程で営業停止 7割代替品なく除外
1/9: ワクチン効くのかな
- 九州和牛産地 肥育期間の短縮策が加速 1/11: 素牛高吸収できず
- 農作物トレンド調査 1位安心安全 昨年1位の「おいしさ」3番に後退
1/12:
- 米国 農業者のTPP関心度が低い 1/12: 誰が踊っているのかな
- 健康志向で「黒」に脚光 ニンニク、ラッキョ、ごぼう他
1/14: 赤では駄目ですか
- 15-16年度小麦出荷ロシアが首位、米加2位に後退
1/14: 生産地図が変わるか
- 農林水産省 輸出拡大で施設、食品規格整備 1/15:
- 熊本八代港から生鮮品アジアに出荷 1/16: 地方から直接出荷いいね
- 鹿児島カミチク 和牛6次化で拡充 1/19: インテグレート高まる
- 北海道 エゾシカ肉の処理施設で認証制に移行検討
1/20: 食品の安全性に行政の責任
- 日豪EPA発効から1年 牛肉関税下げてても高値 現地価格上昇
1/21: 各種変動要因
- 秋田牛 県で団地化 クラスタ活用し飼料米で銘柄化 1/22: 着実に
- らでいしゅぼーや 青果物ネット通販で買い物失敗防止策 1/22: 通販苦戦

東京直近NEWS (1/29 Shi-REPORT)

ホルス 相場は12月大きな格差無く、@1150を僅かに割る状況。販売状況は12月の年末製造在庫の消化にあたり、1月前半は荷動き悪い。交雑2等級の相場が下落傾向から、ホルス部分肉の対抗価格としても拮抗しており、一層ホルス単体の荷動きが厳しくなりつつある。1月後半からは、気温の低下も影響し徐々に荷動きは回復傾向。回復傾向と言っても、底を脱した程度。価格は未だ厳しい状況。やっと切落しやスライスの間合せが徐々に増えてきているが、枝見合いの価格での流通単価では無いことから、各メーカーは収益苦戦模様。予測通り、年始からの販売は大きな回復は難しい中でスタートしている。生産者も素牛価格は未だ高値ベースを維持していることから市況には注目しており、このままの高値素牛を導入していくことに懸念を抱いている。

経産牛 1月枝肉相場は大きな格差無くスタート。肥育ものの部分肉相場下落傾向からパーツ価格と荷動きにやや暗雲、挽き材としては輸入物の相場下落から、こちらも不安要素大きい船出。国産牛の使用用途としては、大きな需要の変化は無いものの、上記のとおり、輸入ものの価格下落スピードが速く今後の需給バランスに何かしら影響ありと予測。今後、決算時期を含め、在庫放出の情報も聞き及び、更なる価格勝負の一面も多々か。一番危惧する点は、ホルスを主体に肥育牛スソものの荷動きが鈍いことから国産牛同士で品種の代替え供給によって、全品種の販売価格・荷動きに影響出ることか。

左先生の畜産学研究NEWS

今年に入って格安スキーツアーバスによる若者の死亡事故や異物混入で廃棄されたはずのビーフカツが転売され消費者に渡った事件など、日本の安全は大丈夫かと疑いたくなるような記事の連続です。規制緩和と価格競争の激化や労働力不足などが共通して背後に潜むように思われます。一億総活躍より総点検が必要でしょう。最近はやりの変換ミスではないのですが「仕事の老化現象」を防ぐにはという記事がありました。挑戦案件を次々否定するのはNO梗塞、毎日同じ時間に同じ通勤路で職場に行き、指示通りの勤務をすれば勤力低下を招き、酒席は同僚ばかりでは人脈硬化になります。仕事向けの体幹作りには5年後の目標設定と、改善点を振り返って言葉に書き出す訓練が大事です。自身に向き合い、仕事力の老化に抗う努力が年寄りに限らず、30代以降は特に重要だそうです。e-びーふNews26号の学術情報は下記の通りです。その他に入手された情報は紙面の都合で取捨選択し、逐次解説します。

1.2015.11.6 第20回北海道肉牛研究会新得大会(道立畜産試験場) シンポジウム-北海道型肉牛生産を目指した取り組み-の一部を抜粋します。参加者名簿112名。

1) 基調講演: 国内牛肉生産地における牛肉の品質および安全性の構築を目指す取り組み(松村啓子;宇大教育学部)

北海道における牛肉生産が地域構造として和牛や乳用種および交雑種を材料に国内の消費者との主体間関係を築き産地存続条件を満たす方策を提示しています。十勝地方の銘柄牛肉と本州の販売先・消費者との関係を事例として食品安全性を意識した農場HACCP制の導入など飼養管理等の品質構築による安全性確保が必要です。

2) 話題提供: 「TPP 締結前夜 北海道肉牛の残された手段-近況マーケット分析からのシミュレーション」(花房俊一;環り協)

署名式目前のTPPでは日本の牛肉生産が和牛を材料に海外輸出に打って出ることを政府が期待しています。この内容は、独自の食肉流通と市場の分析から行政指導と金融機関の問題点を指摘し、北海道肉牛生産の展望を述べています。消費者の指向から和牛もコスト軽減で自給飼料を活用し、22ヵ月齢、800kg出荷A3、@2,000/kgが目標値で産直の促進と循環型農業の起点を目指すべきと思われます。尚この発表は昨年9月開催の産肉研究会学術集會でも報告され、PPTファイルはe-びーふNews#23-25に道総研畜試から掲載されています。

2.2015.11.14 家畜栄養生理研究会秋季集談会(大津市・松乃荘)
1) 代謝プログラミングによる和牛の体質制御に関する研究(後藤貴文;九大農研院)

黒毛和種牛は骨格筋への脂肪蓄積能力の高い品種特性があり、和牛子牛育成期の成長へDOHaD概念のエピジェネティクス研究分野である代謝プログラミングを行い、その牛肉生産における効果を後の放牧肥育によって検証しました。黒毛和種における哺乳・育成期の強化哺育が最終的な肉量・肉質に有効に機能することが示唆されました。

2) 脂肪蓄積部位の違いが肥育牛のアディポジェネシスに及ぼす影響(山田知哉;畜草研)

黒毛和種と乳用種肥育牛の皮下・内臓脂肪組織のアディポカインやPref-1遺伝子発現を解析し、脂肪蓄積部位の違いが肥育牛の脂肪蓄積に及ぼす影響を検討し、 α -トコフェロールや β カロテンの効果や遺伝子発現やテロメア長などで皮下と内臓の脂肪組織は異なる反応を示しアディポジェネシスの制御機構解明では、生理機能の異なる臓器として扱う必要性が示されました。

道総研 畜産試験場NEWS

「TPP妥結前夜 北海道肉牛の残された道～近況マーケット分析からシミュレーション」④

北海道肉牛生産の提案

- 品種の多様性を図る
- サシ志向からの脱却を図る
- 牧場は直販を進めよう
- ほかに

社会的意義

